

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第11週 (3/10-3/16)

## 1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第11週	第10週	第9週	第8週
小児科	18	18	18	18
インフルエンザ/COVID-19	28	28	28	27
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段:報告患者数、下段:定点当たりの報告数

定点当たりの報告数:報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	3/10-3/16 第11週	3/3-3/9 第10週	2/24-3/2 第9週	2/17-2/23 第8週
小児科	RSウイルス感染症		7 0.39	7 0.39	5 0.28	2 0.11
	咽頭結膜熱		2 0.11	5 0.28	2 0.11	2 0.11
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	33 1.83	43 2.39	31 1.72	40 2.22
	感染性胃腸炎		295 16.39	299 16.61	244 13.56	276 15.33
	水痘		2 0.11	11 0.61	6 0.33	7 0.39
	手足口病		0 0.00	2 0.11	2 0.11	1 0.06
	伝染性紅斑	↑	33 1.83	16 0.89	23 1.28	20 1.11
	突発性発しん		4 0.22	2 0.11	2 0.11	3 0.17
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.11	0 0.00	1 0.06
I C O V I D	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	↑	108 3.86	96 3.43	60 2.14	84 3.11
	新型コロナウイルス感染症	↑	119 4.25	91 3.25	62 2.21	94 3.48
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	↑	8 1.60	6 1.20	6 1.20	2 0.40
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↑	3 3.00	2 2.00	7 7.00	6 6.00

「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★:「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★:「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

<増減>:マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓:「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

## 2 全数報告対象感染症 12 件

感染症		性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核	(患者)	女	20歳代	侵襲性肺炎球菌感染症	男	80歳代
	(無症状病原体保有者)	男	30歳代		女	30歳代
	(無症状病原体保有者)	男	50歳代	梅毒	男	40歳代
	(患者)	男	70歳代		男	10歳代
	(患者)	男	70歳代		男	10歳代
A型肝炎	女	10歳未満	百日咳	男	10歳代	

結核5件(21)、A型肝炎1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(7)、梅毒2件(18)、百日咳3件(7)の発生届があった。

※ ( )内は当該年の累積数。累積数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 3 定点当たり報告数 第11週のコメント

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.83となった。年齢階級別の報告数は4歳が最多。

### <感染性胃腸炎>

前週からほぼ横ばいで16.39となった。過去5年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は6歳が最多。

### <伝染性紅斑>

前週より増加に転じ1.83となった。警報レベルは前週に解除されたが過去5年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は6歳が最多。

### <インフルエンザ>

前週より増加し3.86となった。年代別の報告数は0-9歳が最も多く、10歳未満では5歳が最多。

### <新型コロナウイルス感染症>

前週より増加し4.25となった。年代別の報告数は10-19歳及び40-49歳が最多。

### <流行性角結膜炎>

前週より増加し1.60となった。過去5年の同時期と比べると最多のままで、年代別の報告数は10歳代以外全ての年代の報告があった。

### <新型コロナウイルス感染症入院>

前週より増加し3.00となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

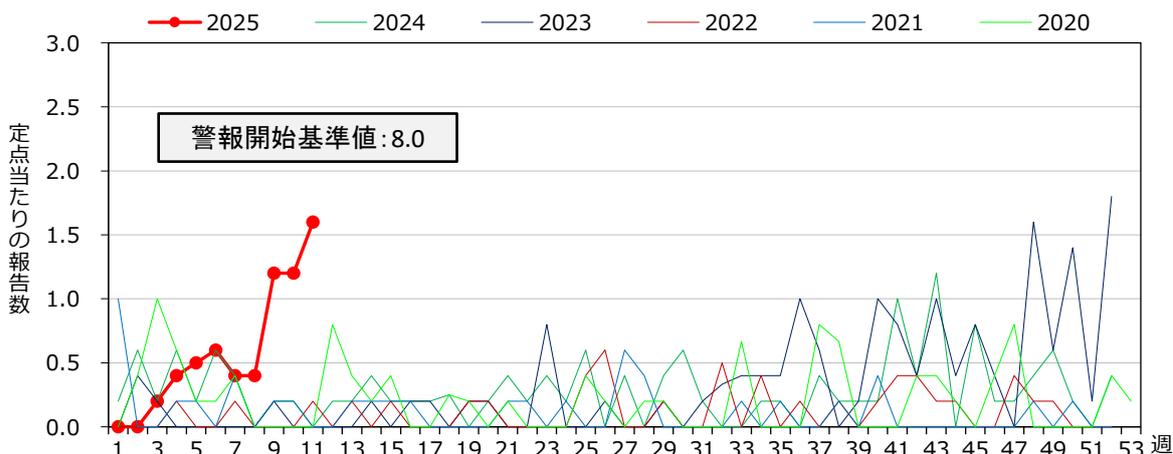
## ■ トピック ■

### <流行性角結膜炎>

2025年の全国の定点当たりの報告数は、第2週以降過去5年の同時期と比べるとほぼ最多の状態と推移しており、第10週時点は0.83となっています。都道府県別では、沖縄県(9.22)が最も多く、次いで長野県(3.30)、愛媛県(2.88)の順となっています。千葉県は1.00で全国レベルと比べると多くなっています。

千葉市では、第3週から報告が出始め、第5週以降過去5年の同時期と比べると最多の状態のまま推移しています。第11週は前週より更に増加し1.60となりました(図1)。

図1 年別・定点当たりの報告数



第1週から第11週までの定点医療機関からの報告数は、男性18件(56.2%)、女性14件(43.8%)の合計32例であり、年代別では0-9歳(14件、43.8%)が最も多く、次いで40-49歳(7件、21.9%)、30-39歳(6件、18.8%)の順となっています。0-9歳(14件)では7歳(4件)が最も多くなっています。(図2、図3)。

図2 年代別報告数 (2025年第1週-第11週 n=32)

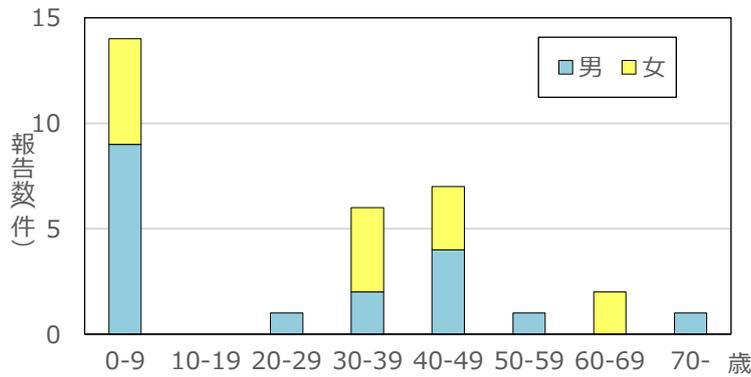


図3 年齢別報告数 (2025年第1週-第11週 0-9歳 n=14)

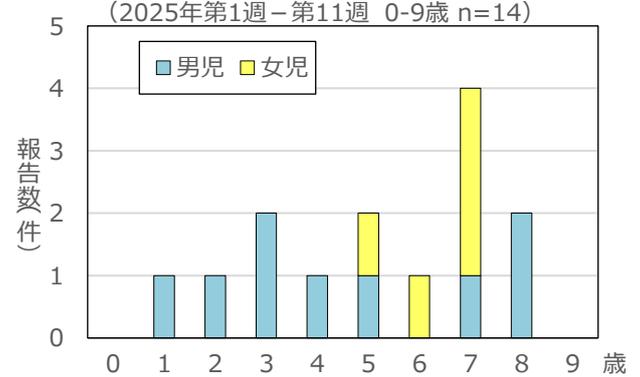
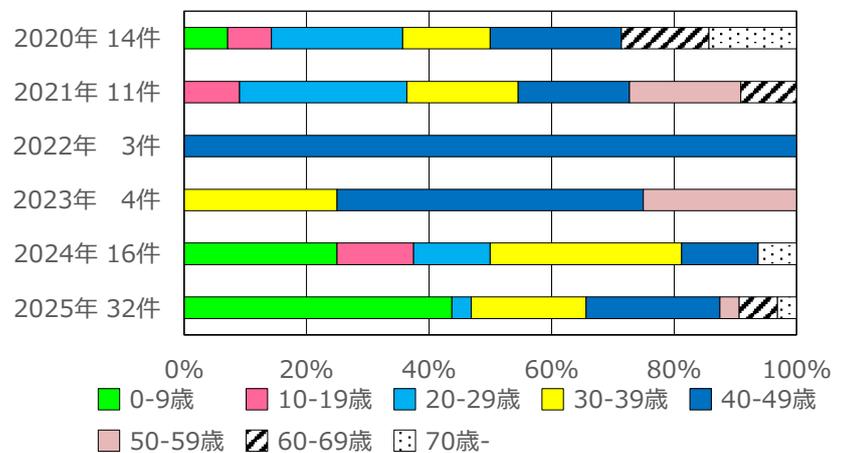


図4 報告数に占める年代別分布 (2020年-2025年 第1週-第11週)

2020年から2025年の第1週-第11週の報告数に占める年代別の割合は、2020年及び2021年と比べると、2024年以降は0-9歳が増加しています(図4)。



流行性角結膜炎は、アデノウイルスD種の8、37、53、54、56、64/19a型などによる眼感染症です。患者は0~4歳を中心とする小児と、成人では30代を中心とした幅広い年齢層にみられます。

約1~2週間の潜伏期の後、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがあります。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがあるので注意する必要があります。通常、発病後2~3週間程度で治癒します。感染性が大変強く、家庭内感染や院内感染を起こすことが多くなっています。

接触感染するので、患者との接触やウイルスによって汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器などに触れるなどして感染します。感染を防ぐために、こまめに手洗い・消毒を実施し、タオルや点眼液など目に接触するものは共用しない、ドアノブや手すり、おもちゃなどをこまめに次亜塩素酸ナトリウム等で清掃、消毒することが効果的です(通常の消毒用アルコールは無効です)。

<参考>

千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>